

ようなキャンパスを逃がれてゆかねばならない。この現状を見すごしにはできない。こうした騒音は大学の本来の諸機能をはなはだしく低下させている。騒音問題は、単にそれが研究・教育に支障をきたすということではなくて、大学自体の荒廃、自治能力の低下、内的精神的支柱の欠如の端的な

あらわれではないだろうか。そのような愚痴をこぼしていてもはじまらない。私が今したい提案はごく簡単なものである。先ず第一段階として、研究・教育に支障をきたす一切の拡声装置をただちに学内から排除すること。

「教養」閑話

塚 本 正 明

A「B先生、一般教育の初講義がお済みになったようですね。お茶でも呑みながら新米教師どうしの語らいと参りましょう」

B「そうですね。今日は『教養』のことなど話題にしましょうか」

A「『教養』と言えば、昔教養課程の学生時代に外国語の辞書を調べたら、『教養』の語原である英語やフランス語の culture やドイツ語の Bildung には、耕作、栽培、修養、陶冶、文化などいろいろの訳語がありますね」

B「ええ僕も一度調べたことがあります」

A「ところで僕の考えでは、今言った訳語例は、原語の中で微妙に統一されているので、『教養』という訳語には他の訳語のニュアンスが含蓄されていると思うのです。そこで『教養』とは、土地を耕作し、作物を養い育てるように、人間の知情意全域にわたる内的生命の土壌を耕やし、人間の社会的文化的営為の活力となる精神的諸能力を陶冶し、養い育てること、と定義できるでしょう」

B「なるほど。僕にも言わせて貰うと、文化現象の活力源である脳を、前頭葉、側

頭葉、後頭葉それから脳幹部に到るまで、隅なく鍛えること、となりますかね」

A「そう言ってもいいでしょう。つまり、狭い部分領域に限られた専門知識に対して、幅広く生活万般に通じる生きた知識、つまり知恵という性格が『教養』にはあると思うのです。だから『教養』は、全般的性や一般性という性格をもつと言えるでしょう」

B「そうすると当然、いわゆる『専門』教育に比較して、『一般』教育が『教養』と密接に結びついてくる訳ですね」

A「ええ、そこが大事なところでしょ」

B「そう言えばディルタイという哲学者に、知情意の内的生全体の調和的發展を高調した『全人』思想というのがありましたね。これに基いて『全人教育』も成り立つのでしょが」

A「だから理想論を言うと、人間の内的生の全域を開発し、そこから『世界観』なり『人生観』なりを形成し確立していく助けとなるべきものが、『一般』教養とかこれと結びついた『一般』教育だろうと思うのです」

B「そうするとそれは、世界と人生との全体を見透しうる知性の涵養を課題としている、と言われるのですか」

A「ええ、まあ理想論にすぎないかも知れませんが」

B「ところでもともと『一般』と『専門』ないし『特殊』とは対概念だし、また互いに依存する相関概念でしょう。それで『一般』教育と『専門』教育とは、有機的な教育体系全体において互いに相関関係や相補関係をもっていると思いませんか」

A「それはもう周知のことでしょうが、問題は、その相関性や相補性を実際の教育現場でどう実現するかですよ」

B「そのことは、哲学など教えている僕にも悩みの種なんです」

A「話しをもとに戻すと、とにかく『教養』は、全般的や一般性をもつ生きた知識つまり知恵に結びついていると思いますね。だから僕は、真に『教養ある人』とは、知識を生活に生かす人、知恵ある人(あなたも知っての通り、「知恵を愛する人」というのが「哲学者」のギリシャ語原ですが)であると解釈したいのです」

B「なるほど、それも一説ですね。そう

言えば、『教養』の浸透した教養人の知恵者からは『教養がにじみ出る』のでしょうが、それに較べて『教養をにじみ出す』つまり『教養』を自己目的化した『教養主義』の信者がよくいますね。僕もそのけがあるのですが」

A「どうもその『教養主義』には、いったい何のために『教養を身につける』のかという点について誤解があるように思えますね」

B「『専門』を離れて『一般』は成り立たないし、具体的『専門』知識を離れてしまったら、『教養』は仙人の食らう霞のようなもので、人間の栄養には役立たぬということでしょうかね。そうすると、やはり問題は、『専門』と『一般』、『専門』と『教養』の有機的相補関係になるのですね」

A「どうもわれわれは哲学科出身だけあって話しが抽象的になりがちですね。今日はこの辺にして次回に議論を深めることに致しましょう」

B「閑話休題。それではまた理想論なりお聞かせ下さい。どうもおいしいお茶をご馳走さま」

私の受けた一般教育

高木 文夫

何とかすべりこんだ大学で一般教育なるものを受けたのは今から8年前の1968年である。かなり年数をへだてているので記憶も定かではないが、何とか迎ってみて、自分の体験内での一般教育について述べてみたい。

(私が入学した当時の一般教育のシステ

ムと現在のそれとは幾分異なっていると思うが、私の体験内ということで、当時のシステムを話題としたい。)

私の入学した山口大学はその時はまだ旧市内から郊外への統合移転の最中で新キャンパスに建っているものといえば、農学部と教養部および体育施設と建設中の文理学